

群 教 セ	G15 - 01
	令 6 . 286 集
	高 - キャリア

令和 6 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社ヤマト

長期社会体験研修員 野田 正司

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社ヤマト（以下、ヤマト）は昭和 21 年 7 月 12 日に設立、従業員数 1,103 名の群馬県を代表する建設会社である。東北地方から関西地方まで、支店が 7 か所、営業所が 13 か所あり、その他、教育センターをはじめとした附属施設 5 か所、グループ会社が 10 社と大規模に展開している。業務内容は建築、土木、空調、衛生、冷凍、冷蔵、上下水道、水処理、温浴に関する業務全般と多くの技術を保有している。本来、何社もの企業が入り、1 つの建設物を造るところを、「建設プロダクト」をコンセプトに、計画・設計から施工、保守までを自社で行う「ワンストップ施工」という技術を取り入れるなど、様々な創意工夫で、業界最高の技術とものづくりをもって、顧客価値の高い製品・サービスを提供している企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修、人事課研修【4 月～5 月】（研修場所：ヤマト教育センター、本社）

今年度入社した社員との研修に参加した。内容は、ビジネスマナーやお金に関する知識、保険など、社会人としての基礎・基本を学ぶ講義から、ヤマトで行う各業務の基礎・基本まで幅広い内容であった。中でも、各業務の講義ではコンプライアンスに関する内容が多く、社員、企業を守るため、コンプライアンスの重要性を理解させようという姿勢がとても印象的だった。

人事部では求人活動に同行した。ハローワークから求人票を受け取り、各高校へ持参する一連の業務を体験し、企業側の思いや考え方など、生徒の進路活動にとっても参考になる体験ができた。

(2) 現場実習、社内研修【6 月～3 月】（研修場所：前橋市粕川町、本社）

前橋市内の浄水場が老朽化のため、新しく築造する工事現場で研修を行った。主に現場監督の業務を学んだ。現場での留意すべき点や、働きやすい環境づくり、工事関係書類の作成など、多岐に渡る業務内容を学ぶことができた。また、現場での業務では、地盤改良工、L 型擁壁の設置、配管の調査のための試掘、ステンレスタンクの施工など様々な工種を見学、時には業務をやらせてもらうなど、普段では経験のできない時間を過ごすことができた。今後の授業では実際の体験談として、生徒に伝えていきたい。

現場実習の合間に社内研修にも参加した。ヤマトでは、ハラスメントに関する研修や SDGs 研修、技術研修など、多岐に渡る研修に取り組んでいる。日々の学びが業務に生かされ、ここまで大きな会社に成長するのだなと感じた。ハラスメントに関する研修では「アンガーマネジメント」という怒りをコントロールするという内容を学んだ。学校現場でも、様々な感情の起伏は起こることから、この研修内容は今後の教育現場で大きく活用できると考える。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育について

新入社員研修に参加した際に、信用、信頼につながるコンプライアンスの重要性を学んだ。社会に出てから必要不可欠である法令を遵守する姿勢を、高校生から身に付けることがキャリア教育につながると考えた。また、なんとなく決まりごとを守るのではなく、その意味を理解した上で、自ら守る意識・態度の大切さに気付くきっかけになってほしいと考え、実践授業の題材とした。

(2) 実践の概要（県立利根実業高等学校）

授業実践

題材名 「自ら守れる自分になろう」（特別活動）

対 象 第2学年 101名

高校生の一番身近にある決まりごととして校則を用いて、その意味をグループで考えた。その結果を共有し、校則のもつ意味を考えた。この作業から、今までなんとなく守っていた校則に対し、「そのような意味があるのであれば守ろう」と自ら守る意識・態度を作るきっかけを与えた。

次に、校則とコンプライアンスの関連付けを行い、ヤマト社員に回答を協力していただいた「コンプライアンスに対するアンケートの結果」を共有した。また、教育用ゲームのプラットフォームによるクイズや、ヤマトの総務部長によるオンライン講義など、理解を深めるための工夫を行った。事後アンケートでは多くの生徒が授業の理解を示した。

Ⅱ 研修成果

1 新入社員研修について

ヤマトの業務内容以外のビジネスマナーやお金に関する知識など、社会人としての研修内容が充実しており、改めて、社会人としてのマナーなどを振り返ることができた。また、業務内容の研修では幅広いヤマトの業務について学んだ。要点をしぼった理解しやすい内容で、専門分野以外の知識が身に付いた。ここで学んだ多くの知識を生徒に伝えることで、生徒の学びの深化につなげることができると感じた。

2 現場事務所での研修について

様々な工種においても、準備の大切さ、責任の重大さを学ぶことができた。時間を掛けた準備を行うことにより、安全性を高め、円滑に作業ができることを学んだ。また、現場監督の業務を見学し、様々な業務を滞りなく進めるには、広い視野で俯瞰的に正確に判断する能力が必要であることを知った。これは教育現場でも、指導に生かせる能力であると感じた。チームで一つの構造物を作り上げる際の、情報共有、対話の大切さなどについても、学校での今後の業務で生かしていきたい。

3 キャリア教育実践について

事後アンケートで、「今後、あなたが実行できるコンプライアンスは何かありますか。」という質問に、「提出物の期限を守る」という回答があった。コンプライアンスとは法令を守ることだけではないという説明が、生徒に届いていたと嬉しく感じた。また、学校外の考え方や意見を取り入れることの大切さに改めて気付けたことも成果である。今後も、社会人講師を招くなど、外部からの考えや意見を、取り入れられる機会を増やせるよう努力していきたい。この実践の経験を生かし、今後も生徒が決まりごとの意味を考えるきっかけを作り、その意味を理解した上で、自ら守れる意識と姿勢の育成に尽力していきたいと考える。

Ⅲ まとめ

キャリア教育、企業側から見た生徒の進路活動、現場での専門分野に関わる業務など、普段では経験することができない一年間を過ごすことができた。また、本研修で関わった全ての方々が、支援を依頼した際に快く協力し、支えてくれたことにとても感動した。私自身も、このことを自分ごとと捉え、誰にでも、ためらわずに進んで手を差し伸べられる人間になりたいと感じた。普段とは異なる環境を経験できたからこそ、知ることができた思い、考えであり、本研修の大きな成果である。この経験を大切に、本研修で得たものを、具体的に生徒へ伝え、自信をもって、社会のスタートラインに立てる環境づくりを目指していきたい。

（担当指導主事 三田村 悟）